

◆技術改良試験（重点普及課題）

オキナワモズク種付け密度試験（八重山地区）

八重山農林水産振興センター 牧野清人・中村勇次

1. 目的

八重山地区においては、天然母藻の確保が比較的容易であることから培養種が未だ普及していない。数名の漁業者は、将来の漁場環境の悪化や計画的な養殖を行うための保険として培養種を使用している。しかし、培養種を使用すると種が付き過ぎるのでモズクが細くなると言われている。また、母藻に頼った種付けだと、早期の種付けができない、年毎の母藻の生育に左右されるなど安定した採苗を行うことが困難である。今後の安定したモズク養殖業の推進を図るため、適切な培養種の種付け密度について試験を実施する。

2. 材料及び方法

種付け密度試験は、八重山漁協モズク養殖生産部会西里晃氏に依頼して行った。

12月10日に種付けを開始した。5つの試験区を設定（培養種付け濃度8ℓ/トン、16ℓ/トン、24ℓ/トン、38ℓ/トン、母藻種付け）して5枚ずつ合計25枚に種付けを行った。培養種の乾燥重量を測定するため水産海洋研究センターにサンプルを送り、第1回目試験では0.200mg/ml、第2回目試験では0.052mg/mlであった。12月22日（12日間種付け）に竹富島東側漁場へ25枚の試験網を沖出しした。

3. 結果及び考察

2月2日に現場調査を行ったところ芽出しが確認された。その後、2月22日に本張りへ移行した。しかし、その後の藻体の伸びがみられずに切れてしまっている状態であった。その後も伸びる様子がなく、収穫が不可能と判断され

たため、5月末までにすべての網を回収した。

4. 今後の課題

今回は、前年と比較して種付け・沖出しと順調に進んでいたが、本張り後の天候不良等でモズク藻体の伸びがみられずに芽切れが起こったため収穫して結果を比較することができなかった。

八重山地区では、沖縄本島と比較すると養殖経験が数年の漁業者が多く、養殖技術の問題や天候不良等への対策の遅れから今期は収穫できない網が多く、試験区の網も同様に収穫できなかった。今後は、基本的な養殖技術の指導も併せて行い、引き続き適正な培養種密度について試験を行いたい。



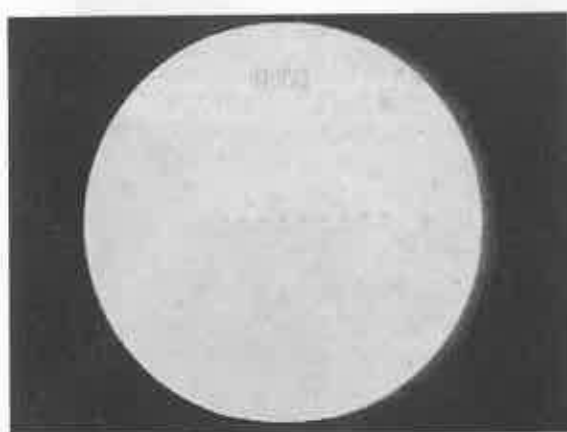
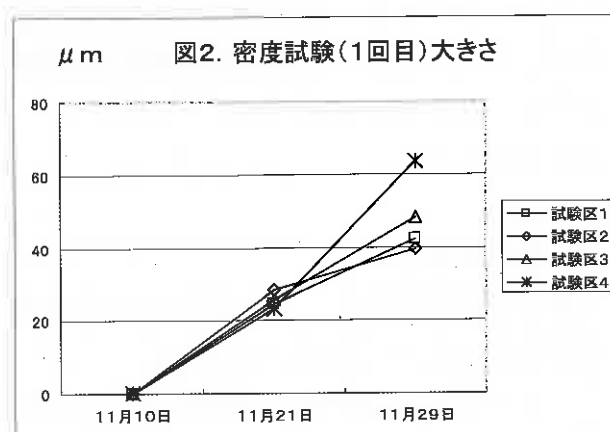
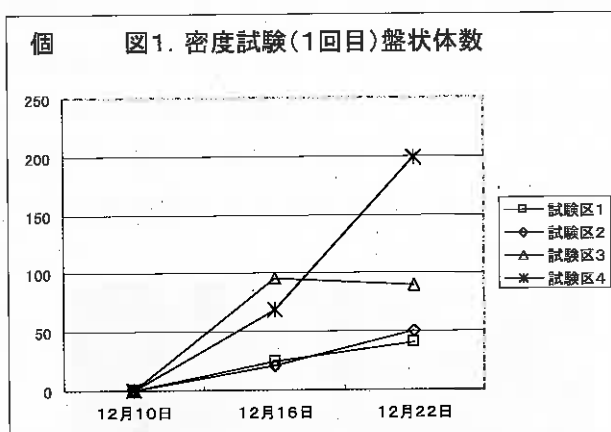
石垣市種苗施設での種付け



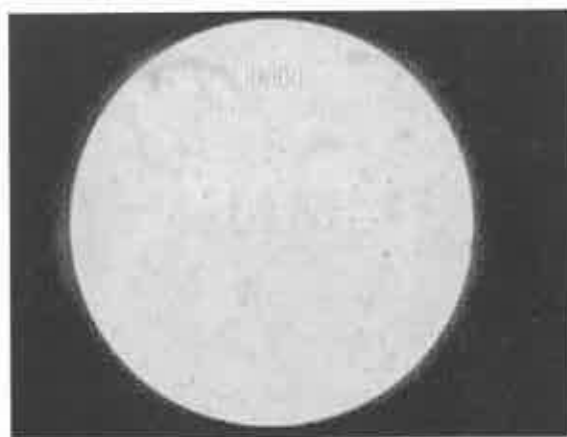
シート採苗による種付け

表 1 密度試験区設定 (第 1 回目)

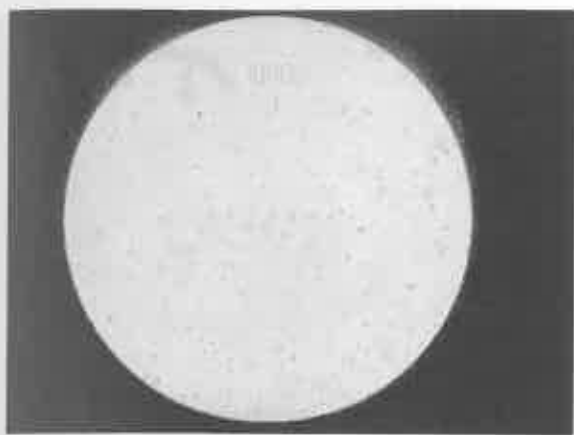
試験区	使用水槽	水槽水深	使用網枚数	使用種量	肥料使用量	確認板設置枚数
1 (赤)	円形パンライト 直径 1.4 m	70 cm (1,000%)	5 枚	8% / トン	250 cc 0.25cc/%	2 枚
2 (青)	"	70 cm	5 枚	16% / トン	250 cc	2 枚
3 (黄)	"	70 cm	5 枚	24% / トン	250 cc	2 枚
4 (緑)	"	70 cm	5 枚	38% / トン	250 cc	2 枚
5 (白)	"	70 cm	5 枚	モズク母藻	250 cc	2 枚



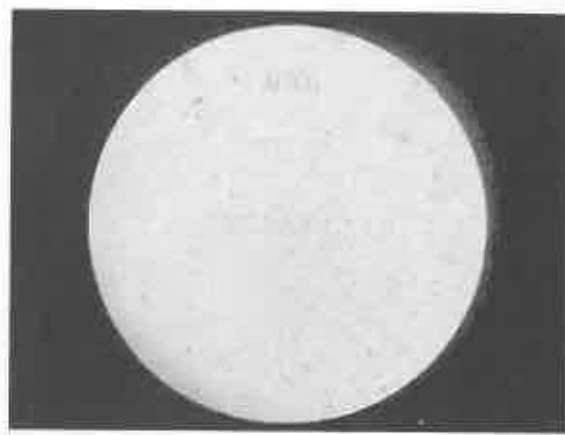
試験区1 (×200倍) 12月16日



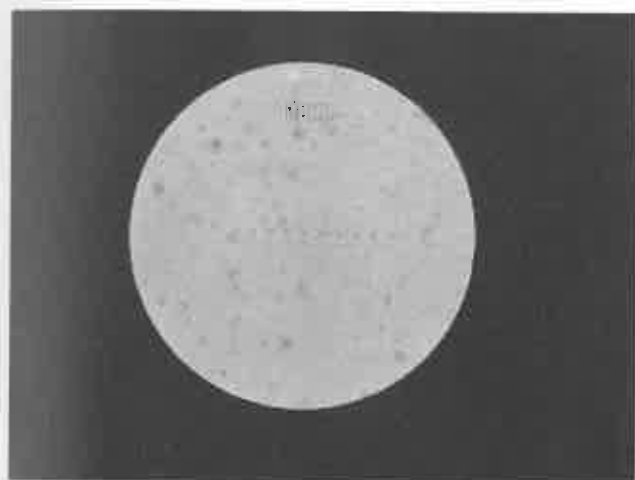
試験区2 (×200倍) 12月16日



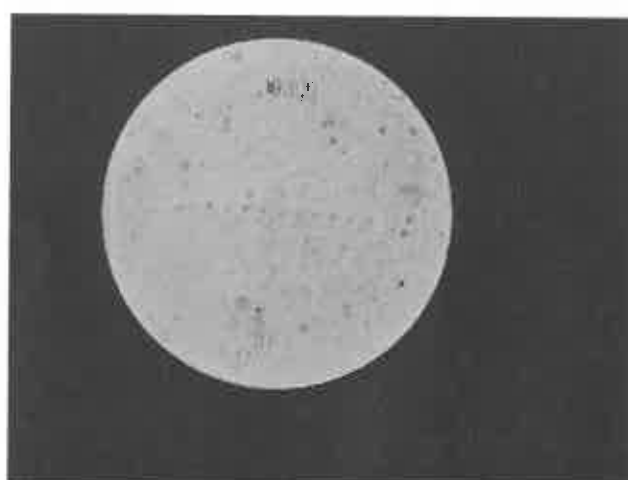
試験区3 (×200倍) 12月16日



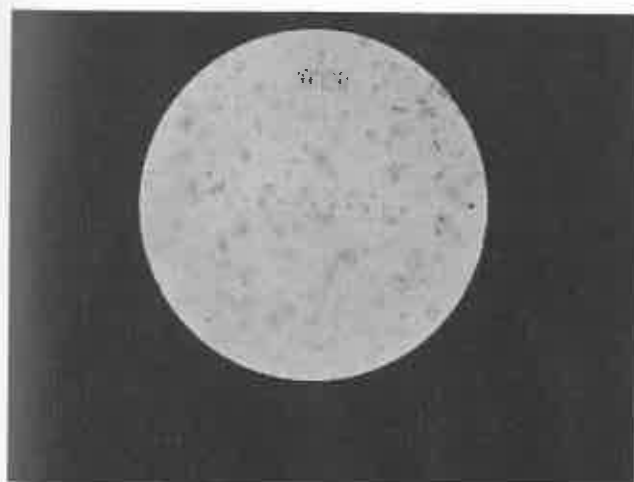
試験区4 (×200倍) 12月16日



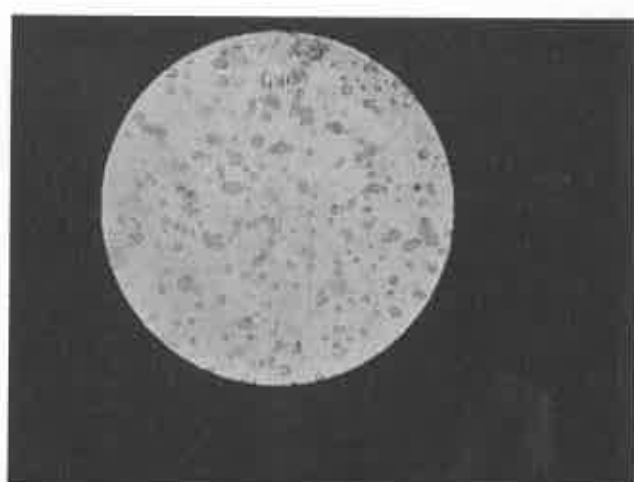
試験区1 (×200倍) 12月22日



試験区2 (×200倍) 12月22日



試験区3 (×200倍) 12月22日



試験区4 (×200倍) 12月22日



①武富島東に沖出し 12月22日



②武富島東に沖出し 12月22日



③本張りへ移行 2月22日



④本張りへ移行 2月22日

